

東日本大震災津波でご支援いただいた全国の管理栄養士の皆様へ

あれから10年が経ちます。早いものです。

過去に類を見ない災害に地元の者がうろたえる中、全国から力強いサポートをいただき、誠にありがとうございました。避難所での栄養相談指導や炊出しの衛生指導、食事調査や支援食材の整理など、時宜に応じた栄養・食生活を的確に実施していただきました。

この10年で、津波に流された防波堤工事は完了、三陸自動車道路や三陸鉄道は全線開通、県立病院も移転再開、市街地は10mのカサ上げ工事が進み、若いエネルギーに溢れた街並みが作られています。

ただ、災害公営住宅で暮らす高齢者にとっては、なじみの地域とお友達と離れ、寂しさとの戦いは続いています。

栄養士会ではそのような高齢者への栄養サポートを続けるとともに、「岩手県地域防災計画」に、①市町村格差のない食料備蓄に対する県の助言、調整、②性別、性的マイノリティや高齢者、障がい者、難病患者、食物アレルギーを有する者、外国人、乳幼児及び妊産婦等の多様なニーズに配慮した避難所運営、③食料の備蓄、輸送、配食等に当たっては『管理栄養士』の活用を図ることを明記いたしました。

県職の組織人として発言もしましたが、組織団体代表のとしての提案には反応の速度が違います。「岩手県保健医療計画」も同様に修正を提案し、“管理栄養士”“栄養アセスメント”などの1行も無かった当時に比べたら前進したと感じています。

今年度で保健所管理栄養士をご卒業になる方もいらっしゃると思いますが、私達は専門技術職としての活動は期待されています。

被災地は今も健康な栄養・食生活支援の方向性を見失わず、活動を続けます。皆様、ありがとうございました。

公益社団法人岩手県栄養士会 会長 澤口 眞規子

(平成19~28年 会員)